

全指連全国大会前日の11月10日、恒例の「特別講演会」が中野サンプラザで開催されました。

「他業種に学ぶ」では荒井伸也氏が、サミットストアを勝ち組に変えたとおきの秘策を公開!



■ブレーキは左足で?!

第5回の今年は、サミット(株)の元社長で、現在、オール日本スーパーマーケット協会会長の荒井伸也氏をお迎えしました。

まずはご自身が62歳で自動車運転免許を取得された経験談を披露。その中で「実はブレーキは左足が楽だということを発見

してしまったんですね。で、そのことを新聞に書いたら「井村屋」の社長からすぐに電話が来て「私もやっている、なんでみんなは気付かないのか」と…(笑)」というユニークなエピソードを披露。併せてシルバー世代を単純にひと括りにする世間の認識のあいまいさにも、言及されました。

■小錦のしあわせ

平成6年。社長に就任された荒井氏は、まず人事制度の改革に乗り出す。それまでの絶対評価では、社員の85%がB評価となり、「評価の体をなしていなかった」。それを相対評価に切り替え、さらに上司の評価だけでなく、同僚・部下も含む「多面評価」を採用。その結果1/4の店長を降格させたという。

「けれどそれはリストラといった方向性ではないんですね。私は“小錦のしあわせ”と言っているんですが(笑)。つまり、トップに上り詰めればそこでもう先がない。万年大関だからこそ、いい仕事を長く続けられるってということも言えるんですね。」

■教習所に応用できる秘策も満載

次に手を付けたのが情報の共有化。会議を伝達会議と意志決定会議の2種類に分け、前者は短く、後者は何時間でも時間をかける。会議の前の根回しを禁じ、2週間前までに全員に資料を回すことで情報の平等化を図った。

また、店舗と本社の話は現場と統括部署という意味で教習所にもなじみやすいテーマだった。現場に実行してもらいたいなら、システムをきちんと作る。一例としてごはんを200gと本社で決めたら、現場ではそのためにパートの人が何回も秤に掛けていた。ならば最初から200gを1度で置れる容器を支給すべき、というのが氏の考え方だ。

■すばり、サミットを勝ち組に変えた秘策

これは一言、「使命の明確化」。サミットがどういうスーパーかというポジショニングをブレさせないこと。“食品”と“一緒に買うと便利な日用品”が大前提。お歳暮などの高級品は、売れていてもすべて廃止したという。「仕事とは問題解決をすること。目的達成を邪魔しているものを取り除く」というのが荒井流だ。そのためにはいっさいの差別をなくす。学歴や男女、中途採用か否かといった要因での差別をなくした結果、すでに高卒の社長も誕生している。併せて「本業以外の利益は出さない。不動産や株などには手を出さない」と言い切られたのも、この時代だからこそ、印象的に残る言葉でした。

荒井伸也氏の講演に参加して…

経営者の意識で会社は変わる!ということを強く感じました

静岡県 マジオドライビングスクール藤枝 常務取締役 松本 義弘

先日、社内におきまして一部の社員に次のような問い掛けを致しました。「女性に喜ばれるにはどうするべきか。」全員が一所懸命に考え、意見を述べてくれましたが、どれもイマイチであり、ため息が出始めた頃、ふと気が付いたことが一つ。その場に居たのは男性のみ。しかも、全員ある程度年齢が経っている社員ばかり。こんなことをしているから私達は世間の時間軸から遅れていくのだと改めて感じました。

我々は時として、さも顧客の気持ちや全てを理解していると感じがちですが、実際にはかなり偏った経営者論理であったり、指導員論理なのではないかと思えます。時々、我々経営者は自分の感覚だけで政策を決めてしまいがちですが、年々顧客と年齢が広がっていることを忘れ、過去の成功体験から、自分自身が成長することを怠りがちになるものです。良いときも悪いときも、常に広く、高い目線で様々な角度から現実を分析し、誰よりも謙虚でなければいけ

ないのではないかと私は感じています。いくら社員教育をしても、結局は我々経営者の器の大きさと会社は大きくも小さくなるのでしょ。今の悪しき現状を否定し、新しい発想で、勇気を出して行動することが必要なのかもしれない。

今回のご講演から、今行っている日常の全てを見直し、無駄を徹底的に無くし、こだわりを持つことが少なからず私には必要だと感じました。

皆様も荒井氏の言葉から個々に何かを感じ取られたことと思います。私自身そうですが、「感じた』『考えた』だけで終らず、一歩でも前に進むべく何か行動に移していきたいものです。我々の業界が、将来、全国民から愛される存在になるために精一杯の努力をしていきたいものです。



展示会ではコンピュータ学習システム「楽勝問題」と学科教習システム「CVI」に注目が集まりました。

講演会当日はロビーを使って当社取扱商品の展示会が行われ、たくさんの方に熱心にご覧いただきました。



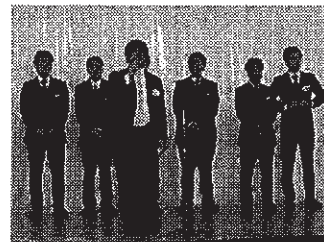
右脳トレーニングもかねる「楽勝問題」では、右脳ブームの再来と云われるだけあって、たくさんのお客様が興味をもたれたようです。また、お知らせメールの配信や学習ページ参照機能、自宅学習も可能、と数々の優れたものの機能に、教習生になったつもりで挑戦されている方の真剣な顔がとっても印象的でした。コンピュータ学科教習システムCVIは、コンピュータを使って思いのままにスマートな教習ができ、教習に必要な資料(新聞の切抜きや写真etc)をパソコン内に取込めば複数教室でも使用できるという便利機能を満載。「これは感動ものだね!」と仰ってくださった方も…。教習所の永遠のテーマである「教習の統一」をサポートできるデジタル教材にブースを訪れたお客様全ての方が「学科教習の新時代到来」を肌で感じたのではないのでしょうか。我々スタッフも改めて新時代の到来を感じた展示会でした。

講演終了後はお楽しみの懇親会。北は釧路から南は鹿児島まで、文字通り全国津々浦々から集まった方々の賑やかな情報交換や旧交を温める姿があちこちで見受けられました。また、こちらも恒例となりました轟会メンバーによるクイズ大会では、商品券やiPodなど豪華賞品の争奪を賭け、大いに盛り上がりました。



轟会はコヤマドライビングスクールで長期研修を受けた全国教習所の経営者ジュニアの集まりです。

今回全国から駆けつけた轟会のメンバーたち



小森敏弘 豊前自動車学校
アイルモーターズスクール
野村晃太 和歌山県田辺自動車学校
梅田裕樹 サンモーターズスクール
フェニックスモーターズスクール
鈴木慎也 山形第一自動車学校
深谷俊介 南部自動車学校
浦上大輔 フタバ自動車学校
坂口 忍 南海自動車学校
生茂伸明 松戸東自動車学校
檀谷亮介 淡陽自動車学校
秋山 実 小田原ドライビングスクール
相馬慶輔 釧路自動車学校